

# 園長先生の子育てひろば

令和6年10月

園長 堀田 あけみ

椋山女学園大学付属幼稚園の園長は、大学の教員が兼任しています。今までは、教育学部からが多かったのですが、私は外国語学部 国際教養学科です。せっかくのレアケースなので何かできないかな、と思って、夏休みの預かり保育では、「外国語であそぼ」と称して、フランス語と中国語でイベントを実施しました。外国語学部には、それらに加えてドイツ語のコースもありますが、はじめてのことですので、まずは2か国です。挨拶や手遊びをして、フランスは国旗、中国は折り紙のパンダを作りました。お土産にはお菓子、フランスはガレット、中国はマーファルーです。後者は小麦粉をねじた揚げ菓子で、長崎でもお土産として売っているお店があります。

通常の保育では、週に一度、英語の時間があります。幼稚園から椋山小への進学を希望される理由にも、英語教育の充実が挙げられる方が多くおられます。幼児教育のPRで、幼児期は英語教育のチャンス、といわれた経験はどなたでもお持ちではないでしょうか。英語を流暢に話すお子さんの動画が流れたりもしますね。確かにそうです。例えば、乳児の喃語でも、6カ月を過ぎると保護者の使う言語に含まれる母音だけを発音するようになります。そう聞くと、もっと早く、乳児のときから英語聞かせなきゃ、と思うかもしれません。でも、いくつかの補足事項を知っておいていただきたいと思います。

私は、幼児期の英語教育の意味は、習得することそのものの他に、異言語・異文化を受け入れる土台を作ることにあると思っています。自分の周囲にあるものだけを正解としない柔軟な頭を作ることです。確かにそれは早い方が良いですね。学生たちにも、文化的な違い、特に宗教的なものは、きちんと知っておかないと思いがけないトラブルに発展することもあると、よく言っています。かつては大人気だった血液型の性格占い、今は差別につながるので触れないのが常識になっていますね（もし、アップデートできていなかったらしておいてください）。まだ、血液型の話をしたがる子には、留学したらしないでね、と忠告します。生来的で努力で変えようのない血液型で相手の性格を決めつけることは、差別であり人権の侵害である、ととられることもあるからです。また、八百万の神に囲まれて、捨てる神あれば拾う神あり、という環境で育っていると、一神教の神は唯一にして絶対である、という感覚はなかなか理解できません。それらの妥協点をみつけるのではなく、お互いに異なるままで認め合う、そんな土台を作るお手伝いが出来たらいいと思っています。

それから、習得される外国語のレベルは、母国語のそれを超えないと複数の論文で検証されています。まずは日本語です。幼稚園には「えほんのへや」があり、3000冊の絵本を揃えています。土曜日の午前中は開放されていますので、どなたでもご利用いただけます。日々の保育の中でも、読み聞かせで古今東西の名作に触れて、豊かなことばを獲得していきます。また、端午の節句や七夕、お月見、お餅つき、節分、ひな祭りや伝統的な行事にも親しんでいきます。

グローバルな人材を育てるには、まず母国を知ること。秋には、お月見や紅葉狩りなど、お子さんと一緒に楽しまれてはいかがでしょうか。

